

オリンピック・パラリンピック推進対策特別委員会

速記録第十五号

2015年3月6日

出席議員 十八名

委員長	高島なおき君	小林 健二君	林田 武君
副委員長	畔上三和子君	石川 良一君	川井しげお君
副委員長	小磯 善彦君	山内れい子君	立石 晴康君
副委員長	村上 英子君	小山くにひこ君	酒井 大史君
理事	橘 正剛君	徳留 道信君	欠席委員 なし
理事	吉原 修君	山崎 一輝君	
理事	吉田 信夫君	鈴木 隆道君	

出席説明員

オリンピック・パラリンピック準備局 局長	中嶋 正宏君	大会準備部長	延與 桂君
次長理事兼務	岡崎 義隆君	連絡調整担当部長	浦崎 秀行君
技監	佐野 克彦君	連絡調整担当部長	小室 明子君
技監	邊見 隆士君	大会計画担当部長	児玉英一郎君
技監	石山 明久君	競技担当部長	根本 浩志君
総務部長	鈴木 勝君	施設整備担当部長	小野寺弘樹君
総合調整部長	加藤 英典君	輸送担当部長	荒井 俊之君
準備会議担当部長	矢部 信栄君	スポーツ推進部長	早崎 道晴君
事業推進担当部長	福崎 宏志君	スポーツ施設担当部長	三浦 隆君
計画調整担当部長	鈴木 一幸君		

本日の会議に付した事件

二〇二〇年に開催される第三十二回オリンピック競技大会及び第十六回パラリンピック競技大会の開催に向けた調査・検討及び必要な活動を行う。

- ・二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック会場計画の再検討の状況等について(説明)
- ・大会開催基本計画の概要について(質疑)
- ・大会開催基本計画について(質疑)

石川委員 まず、テストイベントについてお伺いいたします。

二〇一九年に開催されるテストイベントは、プレオリンピックとも呼ばれています。オリンピック大会の前年にその開催予定地で行われる競技大会で、一九六三年に、一九六四年東京オリンピックの前年に、大会組織委員会が競技の運営に万全を期すため、諸外国に呼びかけて東京国際スポーツ大会を開いたことに始まり、以後、オリンピック大会の前年に類似の大会を開くようになったといわれております。本番のリハーサルを兼ねて開催都市で行われてきたわけでございます。

まず、テストイベントの基本的な考え方や位置づけについてお伺いいたします。

根本オリンピック・パラリンピック準備局競技担当部長 オリンピックのテストイベントにつきましては、原則といたしまして、大会の前年を中心に、実際の大会で使用予定の競技会場を使いまして、可能な限り本番に近い状態で実施いたします。

テストイベントから得られました結果を運営の改善につなげまして、大会本番において最高のパフォーマンスが発揮できるよう実施するものでございます。

石川委員 テストイベントと名づけられておりますが、世界選手権や国内選手権と位置づけられている競技もありまして、正式競技とほとんど変わらないわけでありまして。しかし、そのテストイベントの実施状況によって、競技内容などについて変更もあるというふう聞いております。

例えば、自転車ロードレースなどは、男子ですと二百八十キロメートル、女子百四十キロメートルほどのコースで、特に丘陵部では男子が十六週、女子が七週の周回コースも想定をされておりますが、地元自治体としては大いに気になるところであります。

テストイベントの結果が本大会にどのように反映されるのか、お伺いいたします。

根本オリンピック・パラリンピック準備局競技担当部長 テストイベントが終了いたしました後、大会運営にかかわるそれぞれの関係者がテストイベントから得られました課題を共有することで、大会本番に向けて改善を重ねてまいります。

また、関係者が大会の運営経験を積むことで運営能力の向上を図ってまいります。

石川委員 三月二日、二〇一九年ラグビーワールドカップ日本大会の開催地となる十二会場が決定をしたわけでありまして。

その中には東京都も含まれまして、昨日、私も参加しております東京都議会ラグビーワールドカップ二〇一九日本大会成功議員連盟の総会も開催されまして、東京開催決定の報告があったわけでございます。

北海道から九州までバランスよく地域が選ばれており、東日本大震災の被災地でもあり、名門、新日鐵釜石の本拠地でもあった岩手県釜石市も選出されたことは大変喜ばしいことと思っております。

東京では、翌年の二〇二〇年にオリンピック・パラリンピックの開催を控えており、その前年開催となるわけで、大いにラグビーを通じてスポーツ振興を図っていかなければならないと思いき、また、図ることができる絶好の機会といえるでしょう。

一方で、先日発表されました東京オリンピック・パラリンピックの二〇二〇年大会開催基本計画には、ラグビーワールドカップ開催と連動させてオリンピックをどう盛り上げていくのかについて特段触れられておりませんが、オリンピック・パラリンピックとラグビーワールドカップは、組織も運営も別物ではありますけれども、世界からアスリートが結集し、また、お客様を迎える大事な世界大会であることに変わりはありません。

また、同じく二〇一九年にはオリンピック・パラリンピックのテストイベントも開催され、五輪の前年からトップアスリートが日本に結集することで、国内の関心も一気に高まり、選手、関係者のモチベーションも大いに高まるわけでありまして。

二〇一六年開催のリオデジャネイロ大会では、前年の二〇一五年八月、もうことしの八月ということになるわけですが、二〇一六年五月までの間に開催をされるとなっております。

また、プレ大会とはいっても、そのもたらす経済波及効果や大会運営のノウハウの蓄積、都民、国民に対するスポーツ振興について大きな追い風となることは必定でございます。

二〇二〇年大会開催のために、このラグビーワールドカップとテストイベントの二つの事業を成功させることは当然のこととして、大いに学び、そこから得た知恵を本番のオリンピック・パラリンピックに活用していくことをしっかりと位置づけていただくことを要望いたします。

続きまして、少し細かい話になりますが、大会計画書の三五ページ、出入国(AND)についてお伺いをいたします。

主要業務・役割の中で、チャーター便、ビジネスジェットに関する方針と手続を調整するとの記述がございますが、ビジネスジェットについて具体的にどのようなものを想定しているのか、お伺いいたします。

児玉オリンピック・パラリンピック準備局大会計画担当部長 大会開催基本計画における出入国のファンクショナルエリアに記載のあるビジネスジェットにつきましては、大会組織委員会では、世界各国の要人などが利用する専用の飛行機を想定しております。

今後、大会組織委員会が、大会関係者や観客の円滑な出入国が確実に行われるようにするため、チャーター便やビジネスジェットの運用に関して、政府関係機関や空港及び航空会社などと調整していくこととなります。

石川委員 先日、横田飛行場民間利用促進協議会が設立をされまして、オリンピック・パラリンピック開催に向け、多摩地域の商工会、商工会議所などの経済団体が主体になってビジネスジェットの乗り入れをまずは求めていくことを一つの目標としていくことになったわけでございます。横田基地の軍民共用化の扉を開いていくのは、オリンピック・パラリンピックが絶好の機会と思っております。

新たな多摩のビジョンの中でも横田の軍民共用化は位置づけられておりまして、石原知事時代の、サッカーワールドカップ日韓共同開催をにらんで米国にも強く要請をしていたという経緯がありますが、横田基地の滑走路の工事期間等に重なるといようなことも一つの理由で実現に至らなかったわけでありまして。ビジネスジェットを横田基地で実現することについても、ぜひともご留意いただきたいと思っております。

続きまして、大会開催基本計画書の五一ページの清掃・廃棄物についてお伺いいたします。

先日の一般質問でも触れられておりましたが、このミッションは、日本人の持つ美意識とホスピタリティーにかかわると記述をしておりますが、日本的な道德観が具体的に、また現実的にあらわれるところであると思っております。

数年前に、私自身、パリを訪れた際に、まち角ごとにごみを捨てられるかごが設置されているのに、正直なところびっくりしたわけでありまして。東京の自治体では、ごみの持ち帰りを奨励しており、公園等を含めて、ごみかごは撤去することが進められていたからであります。パリは世界有数の観光地ですから、ごみかごの設置は観光客へのサービスの一環として行われてきたのかなというふうには思っているわけでありまして。

ごみの分別と収集は、国内でも自治体によってかなりの差がありまして、世界を見ると、分別など全く行っていない国もたくさんあるわけでありまして。

収集後のマテリアルあるいはサーマルリサイクル等につきましては当然のこととありますが、捨てる際の分別方法などは、我が国民の道德観を現実的に示すものといえると思っております。今後、このあたりをどう考え、実施するかはさまざまな意見があるかと思いますが、現代の日本人のありようを示すものであることから、しっかりとした議論が必要と思っております。

私は、個人的には、なるべくきょうめんに分別をしてごみを収集する方法を選択すべきと考えております。分ければ資源、まぜればごみ。このごみの扱いは、もったいないの精神を示していくことにもつながっていくというふうにおもっております。

二〇二〇年大会ではどのように廃棄物処理を行っていくのか、お伺いいたします。

児玉オリンピック・パラリンピック準備局大会計画担当部長 大会開催基本計画では、大会から発生する廃棄物を効果的、効率的かつ持続可能性に配慮した方法で処理することを掲げております。

このため、今後、大会組織委員会が関係機関と連携し、廃棄物の発生を最大限抑制した上で再使用の徹底や再利用の促進を行うなど、具体的な廃棄物処理に関する検討を実施していくこととしております。

石川委員 ごみの処理をどうしていくのかは、その都市のレベルを決めていくある種の要因でもあるというふうにもいわれておりますので、しっかりとした議論と対応を図っていただきたいと思っております。

続きまして、六九ページ、飲食(FNB)についてお伺いいたします。

ミッションには、各クライアントの持続可能な飲食サービスへのニーズを満たすために必要な計画を策定及び実行し、最高レベルの品質を確保する、また、多様性と調和に配慮した飲食提供とともに、日本食の質の高さをアピールし、未来へ継承するとなっております。

そして、主要業務・役割の中で、飲食提供に係る戦略、食物安全性コンセプトを作成するとなっております。

食物の安全性の問題は、世界共通の課題といえます。そういう意味では、食物の安全性について、ミッションの中では最高レベルの品質を確保するという中に含まれているということになるわけでございますけれども、改めて最大級の配慮をしていただきたいということを要望させていただきます。

また、一六三ページの街づくり・持続可能性についてでございますが、(7)でセンター・コア・エリア内、競技会場周辺、主要駅周辺の道路、緊急輸送道路等の無電柱化の推進となっておりますが、マラソンや自転車ロードレースはコースが非常に長いわけでありまして。

また、トライアスロンも同じわけでございますけれども、マラソンも自転車ロードレースも、例えば東京マラソン、ツール・ド・フランスさいたま、あるいは横浜で行われておりましたトライアスロン等に見られますように、環境に優しく健康にもよいスポーツとして、これからも競技人口も拡大していくスポーツといえるでしょう。そういう意味では、世界中の数億あるいはそれ以上の人々が視聴するこの三つの競技は、日本のまち並みを紹介する上でも重要なものといえるでしょう。

残された時間は、あと五年、いや、テストイベントというふうに考えますと、四年しかないわけでありまして。電柱の地中化の推進を図っていただきたいと思っております。よろしくお伺いいたします。

最後に、一六六ページのオリンピック・パラリンピックの価値や日本的価値観の発信についてお伺いいたします。

大会開催基本計画では、アクション&レガシーブランの例示として、和をもって川となす、おもてなしの心などの日本的価値観を発信していくとあります。こうした価値に加え、より具体的でわかりやすい日本的価値を世界に発信していくべきではないかと思っております。

明治以降、海外から日本を訪れた外国人がまず感動したのは日本人の礼儀の正しさであると、さまざまな著書でも指摘をされているわけでありまして。柔道などの武道は、礼に始まり礼に終わるといわれますが、一方で、最近の若者は礼儀も崩れつつあるといわれております。しかし、それでも世界的に見れば、礼儀正しさは日本人を特徴づけるものだといえると思っております。

歴史、伝統、日本の価値をわかりやすく示していくためにも、日本人の礼儀正しさを育み、大会を機に発信をしていくべきというふうに考えますが、見解をお伺いいたします。

鈴木オリンピック・パラリンピック準備局計画調整担当部長 今後、教育庁では、礼儀作法なども掲載したオリンピック・パラリンピック学習読本を作成し、都内の小中高等学校で活用するとともに、オリンピック・パラリンピック教育推進校で、専門家によるおもてなしの学習などを進めることとしており、こうした取り組みを通じて、日本人ならではの礼節を重んじる価値観を次代に継承してまいります。

そして、二〇二〇年東京大会に世界中から訪れる多くの大会関係者や観客をおもてなしの心で迎え、礼儀正しさを初めとした日本のよさを世界に発信してまいります。

石川委員 日本は、侍の国ともいわれてきました。礼儀正しさは、これからも青少年の教育の場でも実践をし、保持されていかなければならない美德といえるでしょう。

礼儀正しさ、例えば節度を持って挨拶をする等、オリンピック・パラリンピックの中でも日本的価値として世界の人々に伝えられることを願って、質問を終わります。